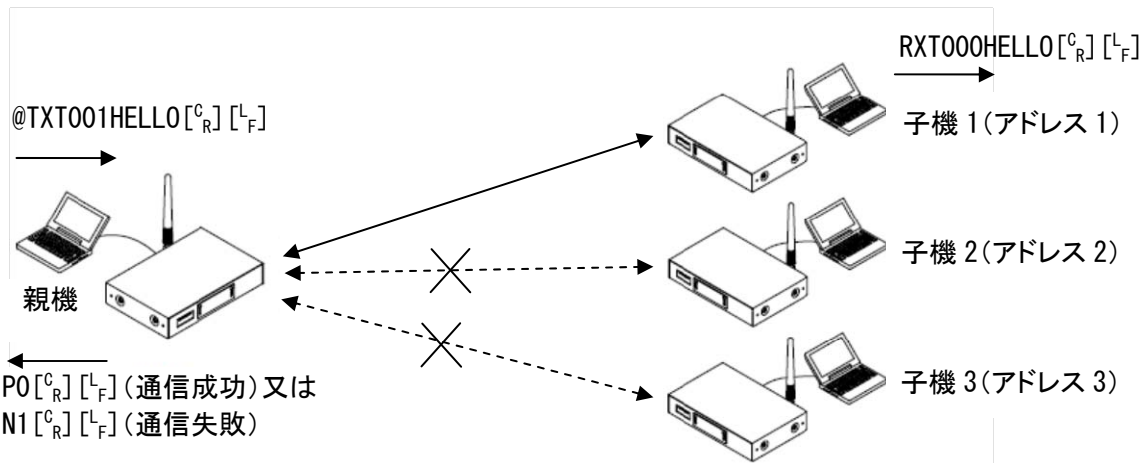


パケット送信モード（通信モード 3）

1. システム構成

規定のコマンドフォーマットに従って、データを送信・受信します。
通信結果のレスポンスを返すので、送信側で通信成功/失敗を判断できます。
1:n 通信が可能です。



2. スイッチ設定

ディップスイッチは、SW No.8 のみ ON、ロータリースイッチは、「0」にします。

3. レジスタ設定

パソコンと無線機を RS232C ストレートケーブルで接続して、Futaba Term などのターミナルソフトを使い、REG コマンドでレジスタを設定します。

【親機】	
REG00:00H	(アドレス 0)
REG01:F0H	
REG02:00H	
REG03:01H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:00H	(周波数ホッピングパターン 0)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:00H	
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:8DH	(パケット送信モード、宛先アドレスチェックを行う)
REG19:40H	(マスター局、ダイバシティ受信を行う)
REG20:07H	(RS232C: 38400bps, 8bit, パリティなし 1stop bit)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	
REG24:00H	
REG25:0DH	
REG26:0AH	
REG27:00H	
REG28:00H	
REG29:00H	
REG30:00H	
REG31:00H	

【子機 1】	
REG00:01H	(アドレス 1)
REG01:F0H	
REG02:00H	
REG03:01H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:00H	(親機同様)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:00H	
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:8DH	(親機同様)
REG19:42H	(スレーブ局)
REG20:07H	(親機同様)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	
REG24:00H	
REG25:0DH	
REG26:0AH	
REG27:00H	
REG28:00H	
REG29:00H	
REG30:00H	
REG31:00H	

【子機 2】	
REG00:02H	(アドレス 2)
REG01:F0H	
REG02:00H	
REG03:01H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:00H	(親機同様)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:00H	
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:8DH	(親機同様)
REG19:42H	(スレーブ局)
REG20:07H	(親機同様)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	
REG24:00H	
REG25:0DH	
REG26:0AH	
REG27:00H	
REG28:00H	
REG29:00H	
REG30:00H	
REG31:00H	

【子機 3】	
REG00:03H	(アドレス 3)
REG01:F0H	
REG02:00H	
REG03:01H	
REG04:00H	
REG05:00H	
REG06:00H	(親機同様)
REG07:05H	
REG08:11H	
REG09:13H	
REG10:40H	
REG11:32H	
REG12:B4H	
REG13:1EH	
REG14:00H	
REG15:00H	
REG16:32H	
REG17:32H	
REG18:8DH	(親機同様)
REG19:42H	(スレーブ局)
REG20:07H	(親機同様)
REG21:09H	
REG22:00H	
REG23:00H	
REG24:00H	
REG25:0DH	
REG26:0AH	
REG27:00H	
REG28:00H	
REG29:00H	
REG30:00H	
REG31:00H	

《注意事項》

- レジスタを設定する前に、無線機を初期化することをお勧めします。
- レジスタ設定を反映させるには、@RST コマンド、又は電源再投入を行ってください。
- シリアル通信条件を変更した場合、PC ターミナルソフトのボーレート、パリティ、スタート/ストップビットを設定した値に合わせてください。

4. 通信手順

@TXT、@TBN コマンドを使って通信を行います。

(1) 親機(アドレス 0)から、子機 1(アドレス 1)への通信

```
[親機] > @TXT001HELLO[CR][F]
< P1[CR][F]
< P0[CR][F] (通信成功) 又は N1[CR][F] (通信失敗)
```

(2) 親機から全ての子機への通信(ブロードキャスト送信)

全ての無線機宛てに送信する(ブロードキャスト)には、宛先アドレスを「255」に指定します。

```
[親機] > @TXT255HELLO[CR][F]
< P1[CR][F]
< P0[CR][F]
[全子機] < RXT000HELLO[CR][F]
```

《注意事項》

- LED は非通信時にスレーブ局の PW が橙点灯で、それ以外全て赤点灯になります。送信時に C0 が緑点灯して、通信が完了すると赤点灯に戻ります。
- ユニキャスト送信時は、宛先局からの ACK が返れば、その時点で再送は終了します。
- ブロードキャスト送信時は、設定した再送回数分送信して、レスポンスは必ず“P0”になります。
- P0/N1 が返る前に次のコマンドを投入すると、そのコマンドは破棄されます。コマンドが破棄された場合、そのコマンドに対するレスポンスが返りません。